

# ことばの教室

## 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」 － 事例研究を通して －

ことばの教室へ通級している児童は、①発音が正しくできない ②ことばがはつきりしない ③どもる ④ことばの発達が遅れている など、それぞれが言語に関する様々な課題をもっている。課題の改善を図るには、一人一人の児童の実態を的確に把握し、一人一人に応じた指導目標を設定し、指導方法を工夫していくことが必要である。

そこで、ことばの教室では、事例研究を通して表現力・コミュニケーション力を高める方法を探っていくことにした。

## 2 育てたい力

### ◆表現力

- 自分の思いや考えを進んで表現しようとする力
- 自分の思いや考えを相手に伝わるように表現する力

### ◆コミュニケーション力

- 自分の思いや考えを進んで相手に伝えようとする力
- 相手の思いや考えを正しく受け止める力
- 周りの人とのやり取りがスムーズにできる力

## 3 研究の視点と手だて

### 〔視点1〕 児童が主体的に活動できるような活動の工夫

- 児童の実態に応じて自分の課題（めあて）を把握させ、その課題解決に向けてどんな活動が必要かを考えさせる。
- いろいろな活動を提示し、その中から自分が取り組みたい活動を選択させる。

### 〔視点2〕 話す・読む活動・リラクゼーションの工夫

- 安心して話のやり取りができるよう、リラックスした雰囲気作りをする。
- 話すこと・聞くこと・読むことが楽しいと感じる活動を体験させ、意欲付けにつなげる。

### 〔視点3〕 個々の課題に応じた練習方法の工夫

- 正しく話したり聞いたり読んだりするために、必要な練習をする。

### 〔視点4〕 日常的な活動の工夫

- 練習したことの日常化、生活化を図る。

# ことばの教室 成果と課題

ことばの教室では、事例研究を通して、表現力・コミュニケーション力を高める指導方法のあり方について探ってきた。その結果、下記のような成果と課題が明らかになった。

## <成 果>

### 〔視点１〕児童が主体的に活動できるような活動の工夫

- 自分の課題（めあて）を把握させ、その課題解決に向けてどんな活動が必要かを考えさせることで、児童は主体的に活動しようとしていた。また、いろいろな活動の中から自分を取り組みたい活動を選択することで、児童は意欲的に活動することができた。

### 〔視点２〕話す・読む活動・リラクゼーションの工夫

- リラックスした雰囲気を感じることによって、児童は安心して話のやり取りをすることができた。
- フリートーク、様々なゲーム、ことば遊び、絵本を読む、音読、お話作り等の活動を通して、児童は話すこと・聞くことが楽しいと感じることができ、自発的な会話が aumentata。

### 〔視点３〕個々の課題に応じた練習方法の工夫

- 正しく話したり聞いたり読んだりするために必要な練習として、機能訓練、聴覚訓練、発音練習、音読練習、スピーチ等を行ってきた。これらを授業の中にバランス良く組み込むことで、課題の改善が図れた。

### 〔視点４〕日常的な活動の工夫

- お使いや伝言、電話をかける、ゲームや物作りをする等の中での話のやり取りを通して、練習したことの日常化・生活化を図ることが、ある程度できた。また、クラスや学年・行事等での発表と関連づけて練習することで、より意欲が高まった。
- 連絡ノート等を使って、保護者や担任との連携を図ることが、たいへん有効であった。

## <課 題>

- ▲児童に自分の課題を把握させるためには、個々の実態に応じた教師の働きかけが大切なポイントになる。その働きかけ方について、もっと探っていく必要がある。
- ▲児童の実態によって、提示する活動の内容を十分に吟味し、その活動を通して児童にどんな力を付けさせたいのかを、教師がしっかり把握して活動させることが大切である。また、その時の児童の状態に応じて、教師が適切に対応していくことも重要である。
- ▲児童の興味関心を把握するために、家庭生活の様子や学級での様子を常に探しておく必要がある。
- ▲正しく話したり聞いたり読んだりするために必要な練習を、児童の実態に応じて、どのタイミングで・何を・どのように授業に組み入れていくかを、計画的に考えていかなければならない。
- ▲練習したことの日常化、生活化をさらに図るためには、児童に自覚を促すと共に、保護者や担任との連携が必要不可欠である。

今後、これらの課題を解決していくことで、児童の表現力やコミュニケーション力をさらに高めることができると考える。